

登校再開に向けて

新型コロナの影響は依然として大きく、先行き不透明な状況が続いております。長期間の臨時休校で子供たちの生活は一変し、心身への影響は計り知れません。支えるべき大人や社会も疲弊しています。



そのような状況の中、4月には、学習・生活等のアンケート調査、三者面談及び校長面談など、ご協力を賜わり、心より感謝申し上げます。この混沌とした状況下でも、「今、子供たちは、とても頑張っている」様子でした。子供たちは、今を生きています。子供たちのその健気さが、事態の深刻さを物語っているとも感じました。

子供たちの困難さを整理すると・・・

- 1 系統的なカリキュラムによる「学習」が、きわめて困難である。
- 2 子供にとって、その時にしかできない多様な「体験」が希薄している。
- 3 家にいることで、人と「関わる」ことが困難で、孤立している。

いずれも、子供たちの健全な成長にとって欠くことのできない要素です。このままでは、子育てや教育は崩壊します。今、私たち学校に何ができるのか、子供たちに対して必要な配慮と、自宅での教育にどのような支援ができるか・・・。

今、私がもっとも危惧しているのは、前述の3「人と関わることの困難さ」です。もちろん、1や2も、学校教育という観点から重要なことですが、なんとか補える部分があります。しかし、「人と関わること = 危ない」という図式は、大きな懸念です。

普段の何気ない人と人との関わり(遊んだり、けんかをしたり、話し合ったり・・・)は、人の成長に欠くことのできない要素です。その関わりを控えなければならない状況は、ゆっくりと子供たちを追い詰めていっています。

学校という学び舎は、先生も児童も、みんなが一堂に会し、対面でコミュニケーションをとることによって、学び合い、教え合い、思考を深め合い、人として成長し合う場です。『生の関わりこそが学校』です。しかし残念ながら、現状では叶いません。

そこで今回、

- 1 各教科の年間指導計画にそった課題(宿題)への取組
- 2 相談日(小グループ学習支援)の設定
- 3 学校図書館の本の貸出
- 4 がんばっている方への応援のお手紙

を柱とした、休校中の【双方向の学びのあり方】を模索し、取り入れることとしました。この3週間が学校再開への『生きた学びの機会』につながればと願います。

今後も休校が続くことを想定すると、配慮とか、支援という段階から、「在宅学習」という考え方に切り替えていく可能性があります。しかし、子供たちが学校でなぜ勉強できるかという、友達と一緒に勉強するからです。多くの子供たちは1人で勉強することは、困難です。特に低学年の子はきわめて難しいでしょう。悩ましいところです。

なお、休校のさらなる延長の際には、ICT環境の整備など、乗り越えなければならない困難な課題が山積しているものの、オンライン学習の導入なども視野に、覚悟と志を持って鋭意尽力する所存です。よろしくお願い申し上げます。